

2 いつでも、どこでも、だれでも

学校における教育相談は、「いつでも、どこでも、だれでも」の考え方が基本です。「すべての教師が、すべての児童生徒に、あらゆる場面で」という姿勢で行うものです。それぞれの学校、それぞれの教師の創意工夫を生かして、教育相談を行いたいものです。

意図的に接触の機会をとらえて声をかけ、話をしてみてはいかがでしょうか。

【ベランダ面接】

○ お昼休みのベランダです。K子（中2）が一人で落ち込んだ様子でいます。先生方はどのように応答しますか？

〈応答例〉

T先生；「どうしたの。元気がないようだけど。」

* 生徒の変化（サイン）に気付いて、
気になっているとの気持ちを表現。

K子；「……」

T先生；「何か心配や悩みでもあるの。」

* 生徒の気持ちに寄り添い、悩みを聴いてあげたいという姿勢。

K子；「…（静かにうなづく）」

T先生；「そう。じゃ、放課後に話を聴かせてもらってもいいかな。」

・
・

◇ 廊下・登下校・係活動中など接触の機会をとらえ、どこでもできます。



ふだんの授業や学級経営、忘れ物から遅刻の指導まで、児童生徒との日常のやりとりすべてが、そのまま教育相談の場と機会になります。常に、一人一人に対するかかわりを大切に、児童生徒の変化（サイン）をとらえられる教師、いつでも児童生徒が見える教師でいたいものです。